

東日本大震災15年

公開シンポジウム

わすれな草

震災遺族の記憶を

記録し伝えることについて

《当事者》と語り合う

開催日時

2026年 3月7日 土 13:30-16:00

会場

(オンライン
参加可)

マストホール

〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小鍬27-3-4
シーサイドタウンマスト2階

※オンライン参加の方は「申込方法」のQRからご登録ください。

後日配信
(録画等)

2026年 3月9日 ~ 3月22日

《プログラムや後日行うネット配信の内容は裏面をご覧ください》

《会場参加の方》

申し込み不要 (3月7日13:00受付開始)

申込方法

《オンライン参加の方/録画等を見られる方》

QRコードからご登録願います (2026年3月4日〆切)。
申込期日後、参加用リンクをメールでお知らせします。



主催：青森公立大学 経営経済学部地域みらい学科 野坂ゼミ

共催：早稲田大学「地域社会と危機管理」研究所、

早稲田大学総合人文科学研究センター<現代社会における危機と共生社会創出に向けた研究>部門



◆お問い合わせ◆

青森公立大学経営経済学部地域みらい学科

准教授 野坂 真 (のざか しん)

Email: sn.nozaka@gmail.com

このシンポジウムは、(公財)旭硝子財団2023年度採択研究助成プログラムにより助成を受けた研究課題「東日本大震災遺族の震災伝承による心の復興を通じた自然共生社会の構築」の一環です。

□ 開会挨拶

村田晶子(早稲田大学文学学術院教授、
総合人文科学研究センター<現代社会に
おける危機と共生社会創出に向けた研究
>部門長)

□ 趣旨説明、講演

野坂真(青森公立大学准教授/早稲田
大学総合人文科学研究センター<現代社
会の危機と共生社会>研究部門招聘研究
員、「地域社会と危機管理」研究所招聘研
究員)

□ 座談会

「震災15年の今、伝わってほしいこと」
司会:野坂紀子(産業カウンセラー)/
野坂真(青森公立大学准教授)
語り手:岩手県大槌町に住んでいた家
族・親族を東日本大震災で亡くし
たご遺族の方々

東日本大震災をめぐって、今なお心の復興と震災伝承が社会全体の重要な課題であり続けている。

震災遺族の記憶には、突然将来の見通しが大きく壊された後、再び歩み始めてきた経験など、多くの人にとって変動し続ける現代社会を生きていく上で極めて重要な経験がふくまれる。しかし、そうした経験を語るには大きな心の負担をとまなうことが多い。一方で、自分なりに気持ちを表現し他の人に「伝わる」ことで身近な人の死や自分の辛い経験が無駄ではなかったと思える部分もある。

震災から15年、被災地域外では震災の記憶が薄れていく今だからこそ、震災遺族の記憶を記録化し伝える意義と方法、さらに課題についてあらためて考えたい。

具体的には、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県大槌町の遺族に、現在の心境や伝わってほしいことなどを語っていただく。当日会場に来られない遺族にはお手紙をいただく形で参加いただく。

野坂 真プロフィール：富山県生まれ。専門は災害社会学。早稲田大学大学院に在学中の2011年から、津波被災地に通い調査を続ける。大槌町では、地域アーカイブ活動、震災犠牲者とその遺族の人生史の記録づくりなどに携わってきた。主著に『地方社会の災害復興と持続可能性』（2023年・晃洋書房）、『災害遺族の心の復興過程記録集 わすれな草《第1集～第3集》』（2022年から継続刊行中、個人出版、第4・5集を2026年3月に刊行予定）。

野坂 紀子(旧姓 濱田)プロフィール：岩手県大槌町生まれ。東日本大震災により実家が被災し、母と祖母を失い遺族となったことから自身の心を立て直すため産業カウンセラーの資格を取得。以降、被災地での心のケア活動、3.11伝承活動などを行っている。震災遺族の本『わすれな草』を共同制作。

インターネット配信 3月9日(月)~3月22日(日)

《配信予定の内容》

- ①震災遺族の経験の聞き書き記録
 - ②座談会に向けて書いていただいた震災遺族からのお手紙
 - ③シンポジウム当日の録画
- ※①・②は、遺族ご本人から事前に公開許可を得られたものだけを見られるようにします。

①の聞き書き記録は、『災害遺族の心の復興過程記録集 わすれな草』という本にまとめてあります。大槌町立図書館、岩手県立図書館、宮城県図書館、国立国会図書館(東京館・関西館)、東京都立図書館、青森公立大学図書館などで閲覧できますが、ご所望の場合は表面の問い合わせ先(野坂)までご連絡ください。

